

厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
（分担）研究報告書

医学的適応による生殖機能維持の支援と普及に向けた総合的研究
「がん・生殖医療看護師養成の方法の確立」

研究分担者：鈴木 直 聖マリアンナ医科大学医学部 教授

A. 研究目的

我々はこれまで本領域を看護師に啓発する目的で、看護師スキルアップセミナーを実施してきた。本研究班ではJSFPと連携し、看護師向けの教育セミナーを主催し継続することによって、最終的には看護師ががん患者に対するがん・生殖医療に関する支援を行う際の情報提供の手法を構築し、テキストの作成を行い、学会による認定制度を確立する。

一方、看護師の教育によって、患者や家族それぞれの背景に応じた適切な自己決定プロセスへの支援策を明確にすることが可能となる。例えば、がん・生殖医療看護師によるサポートにより、患者ががん治療によって不妊症を発症する可能性を認識することが容易となり、遅滞なく妊孕性温存療法を受ける、もしくは妊孕性温存を選択しない自己決定をするなどの意思決定が援助される。

B. 研究方法

がん・生殖医療に関するがんと生殖の各専門性を有する看護師の意識調査を行う。本領域のガイドライン刊行から数年経過した現状における、看護師の立場でのニーズや課題を抽出し、刊行前の状況と比較検討することで、教育セミナーの構築に生かす。また、JSFPがこれまで3回実施した看護師スキルアップセミナーの内容を検証し、参加者に対して施行したアンケート調査を分析する。

C. 研究結果

がん・生殖医療看護師OFNN養成のためのe-learning教材の作成を行った。がん・生殖医療に関する総論に加えて、がん種別各論8分野（女性生殖器・乳腺・泌尿器・造血器・小児・骨軟部・脳・消化器）、及びがん・生殖医療意思決定支援ロールプレイ（がん医療編・生殖医療編）について教材を作成した。看護職を対象とした本e-learning教材を用いた教育介入を行い、前後でのがん・生殖医療に関する知識・態度・実践の変化について評価し、教育の有効性について検証した。

D. 考察

e-learningの作成が予定通り進んでいる。このe-learningと、また併せて作成中のロールプレイ教材が看護師養成の強力なツールとなるだろう。

G. 研究発表

[論文]

1. 中村健太郎, 鈴木直. 小児・AYAがんの妊孕性温存, 医学のあゆみ, 2022; 280 (1) : 117-123.
2. 高江正道, 鈴木直. 小児・思春期がんサバイバーのリプロダクティブヘルス, 日本女性医学学会雑誌, 2021; 28(4) : 630-636.
3. 岩端秀之, 鈴木直. がん患者の妊孕性温存—がん・生殖医療の実践, 腫瘍内科, 2021; 28(2) : 200-205.
4. Ahmad MF, Sugishita Y, Suzuki-Takahashi Y, Sawada S, Iwahata H, Shiraishi E, Takaie S, Horage-Okutsu Y, Suzuki N. Case Report: Young Adults With Breast Cancer: A Case Series of Fertility Preservation Management and Literature Review. Frontiers in Medicine 2021; 8: 1-6.
5. 鈴木直. AYA世代のがん患者への妊孕性温存—本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題, 日本医師会雑誌, 2021; 150 (9) : 1607-1611.